

日本基督道場

2016年1月29日（金）

発行元 日本基督道場 徳恵禎信 Copyright©2014

メール information@nipponnkirisutodoujou.com

エデンの園における人間の自由意志とは？－1

エデンの園については、多くの議論がキリスト教界でなされています。その中でも、特に議論されるのが「人間の自由意志」についてです。つまり、神は、なぜ、エデンの園に人間が食べてはいけない「善悪の知識の木」を、わざわざ、園の中央に置いたのか？という疑問です。

神はエデンの園に「見るからに好ましく食べるのに良いすべての木」を生えさせて、さらに園の中央には「いのちの木」と「善悪の知識の木」を生えさせました。そして、アダムに「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」と厳命されました。神はなぜ、人が食べてはいけない善悪の知識の木を、わざわざ、エデンの園の真ん中に置いたのでしょうか？その答えとして、一般にキリスト教界で言われていることが「神は人間に自らの自由意志を与え、その自由意志によって神の言葉に従うか従わないかをテストするために、わざわざ園の中央に善悪の知

識の木を置いた。」という解釈です。「愛は自発的な自らの行為なので、神に対する人間の自発的な愛をテストするために、園の中央に善悪の知識の木を置いて神の言葉に従うか従わないかをテストした。」という解釈です。一見もっともな解釈のように見えますが、本当にこの解釈で正しいのでしょうか？。

私たち人間は、すべて「テスト」される能力差別社会で悩み、苦しみ、もがいて生きています。なのに、なぜ、神が人間をテストするのでしょうか？。何か変だと思いませんか？みなさん。「神に従うか従わないかをテストするために善悪の知識の木を置いた」とするならば、人間が、自ら造ったロボットを、ロボットが正常に動作するかしらないかを、人間がテストするのと変わりありませんよね？この解釈って。何かおかしいと思いませんか？。エデンの園が人間のテストの場所ならば、私たち人間は「テストで落ちたダメな人間」ということになります。はあ？？？神様はテストで御自身が創られた人間の価値を決めるのでしょうか？。

私も含めて、みなさんは小学校、中学校、高校、大学の間、期末テストの点数によって自分を評価されて来ました。また、受験の時は塾に通いながら大変な思いをして受験に合格してやっと高校、大学に進学しました。

私たち人間は、人と人を競わせて人の知力、体力をテストによって数値化してその数値によって人の価値を決める社会を作って来ました。テストによって人と人を競わせて知的能力や運動能力の順位を

決めてピラミッド社会を作り、その結果、今日の「格差社会」が出来上がりました。現実にそうですよね？。

「神の言葉に従うか従わないかをテストするためにわざわざ園の中央に善悪の知識の木を置いた。」とは、どういうことなのでしょう？。ほんとうにこの解釈で正しいのでしょうか？。

そこで、まず、「人間の自由意志」について、考えたいと思います。

みなさんは、いつもお昼ご飯は何を食べていますか？。ほとんどの方は、自分が食べたい物を選んで食べるでしょう。学生の方は学食で食べたい定食を食べるか、コンビニで食べたいお弁当を買って来て食べます。サラリーマンやOLの方は社内食堂か外食かコンビニで買って来て、その時食べたいと思った物を食べます。「自分が食べたいと思った物を食べる」ことは、自分の自由意志による選択、行動です。ただし、そこには、ある条件が存在します。それは、「お金を払って食べたい物を買ひ、自分の自由意志による欲求を満たさなければならない」ということです。どんなものを食べようが、どんな服を着ようが、どんなマイホームを建てようが、それは個人の自由です。しかし、自分の衣食住の欲求を満たすためには、必ず、「お金」が必要です。つまり、私たち人間の自由意志は、「お金」という土台の上に成り立っています。現実にお金がなければ私たち人間は生きて行くことが出来ません。自由意志によって生きて行くことが出来ません。まず、このことを承知しておいて下さい。

日本では、「職業選択の自由」が憲法で保障されています。そこで、みなさんの中にはすでに結婚されて家庭を持っている方も居られるでしょうし、まだ独身の方は、仮に結婚されて奥さんと子どもが居ると仮定して、ある家族で次のような会話がされたとします。みなさんはこの家族の会話から「自由意志」とは何なのかを考えてみて下さい。

お父さん：太郎や、おまえは大人になったら何になりたいんだ？お父さんはおまえたちの自由意志を尊重するから、おまえたちの好きなこと、やりたいこと、何でもやっていいぞ。お父さんお母さんはおまえたちの夢がかなうように一生懸命応援するから。

太郎君：ぼく、プロ野球選手になるんだ。ホームラン王をとって有名選手になってたくさんお金をもらってお父さんとお母さんに大きなお家を建ててあげるからね！

お父さん：母さん、今の太郎の言葉を聞いたか？父さん涙が出て来たよ。よし！父さんと母さんはおまえがプロ野球選手になれるように一生懸命応援するぞ！！！！がんばれよ！太郎！

お父さん：花子や、おまえは大きくなったら何になりたいんだ？

花子さん：私は大きくなったらお花屋さんになるの。お花でみんな

に幸せを届けるの！

お父さん：うれしいこと言うね、花子。おまえはお花が大好きだからね。よし！父さんと母さんは花子がお花屋さんになれるように応援するかならな。がんばってお花屋さんになれよ！花子！

お父さん：二郎や、おまえは大きくなった何になるんだい？

二郎君：ぼくは大きくなったらヤクザになるんだ。

お父さん：えっ！???今なんて言った???

二郎君：ヤクザだよ！ヤクザ。刺青をして風を切って歩く姿がかっこいいもん。ヤクザになってお金をたくさんもうけてお父さんにかっこいい車買ってあげるからね！

お父さん：おいおい、ヤクザはダメだろう。人に迷惑をかけるような人になっちゃダメだろう。ダメだよヤクザなんて。父さん許さないぞ！

二郎：あれ？だって今、お父さん「お父さんはおまえたちの自由意志を尊重するから、おまえたちの好きなこと、やりたいことをなんでもやっていいぞ。」って言ったじゃん。

お父さん：そりゃ言ったけど、いくらなんでもヤクザはダメだよ。

二郎：ヤダ————どうしてもヤクザになりたいんだよ————！

お父さん：父さんおまえがヤクザなんかになったらおまえとの親子の縁を切るからな！

おわり

もちろんこれは作り話ですが、さて、この親子の会話から、エデンの園における人間の自由意志の本質を見ることが出来ます。

お父さんは自分の子どもたちに「お父さんはおまえたちの自由意志を尊重するから、おまえたちの好きなこと、やりたいことをなんでもやっていいぞ。」と言って、こどもたちの自発的な自由意志による選択権を認めました。これは人間として当然のことです。ですから子どもたちは大きくなったらなりたい職業をお父さんに告げました。お父さんは太郎君と花子さんの将来の夢には喜びましたが、二郎君の夢には反対して、最後は「親子の縁を切るぞ!」とまで言い出しました。なぜ、お父さんは太郎君と花子さんには喜び、二郎君には怒ったのでしょうか？。それは、みなさんお分かりのように、「価値観」が違うからです。太郎君、花子さんはお父さんと価値観を共有する

ことが出来る職業を選択しました。ところが二郎君はお父さんの価値観と合わない職業を選択しました。お分かりですよ？。

お父さんの価値観、感性からすれば、人に迷惑を掛けたり法律を犯すことは悪いことで、ヤクザになることは当然受け入れられません。もし、みなさんの家庭で、ご自分の子どもから「ぼく、大人になったら日本一のヤクザになるんだ！」なんて言われたらどうしますか？「お父さんはお前の自発的な自由意志を尊重するから、お前がヤクザになりたいのなら、ヤクザになっても構わないよ。なるからには日本一のヤクザになり日本中にお前の名前を知らしめなさい。父さんお前がヤクザになる夢を応援するかなら！」と言いますか？それとも猛反対しますか？まあ、みなさん猛反対するでしょう。なぜでしょうか？それは、「自分の価値観と合わないから」です。「自分の価値観に相反するから」です。

お父さんは三人の子どもたちに自らの自発的な自由意志を認め、子どもたちに大きくなったら自分たちの好きな仕事をして自由に生きていいよと、約束しました。しかし、自分の価値観と相反する仕事に対しては反対しました。つまり、お父さんの言う「自由意志」とは、「お父さんの価値観と共有出来る領域の中でなされた自らの意志決定」が、お父さんが子どもに認めた「自由意志」です。二郎君のようにお父さんの価値観と共有出来ない二郎君の自らの意志決定は、お父さんの立場からすれば、それは「自由意志」と言わないのです。お父さんの価値観と共有出来ない子どもたちの自らの意志決定は、お父さんからすればそれはもはや自由意志の範疇ではありません。

だからお父さんは「ヤクザなんかになったらお前との親子の縁を切るぞ！」と怒りました。これはエデンの園でも全く同じです。

創世記 2 : 8 ~ 17

2:8 神である【主】は東の方エデンに園を設け、そこに主の形造った人を置かれた。

2:9 神である【主】は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。

2:10 一つの川が、この園を潤すため、エデンから出ており、そこから分かれて、四つの源となっていた。

2:11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れる。そこには金があった。

2:12 その地の金は、良質で、また、そこにはベドラハとしまめのうもあった。

2:13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れる。

2:14 第三の川の名はティグリス。それはアシュルの東を流れる。第四の川、それはユーフラテスである。

2:15 神である【主】は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。

2:16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それ

を取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

神はエデンの園に、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせて、園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせて、アダムに「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」と命令されました。ここで理解出来ることは、神はアダムに「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」と言って、人間アダムの自発的な自由意志を認めました。自由な選択を認めました。「園のどの木からでも」とは、神が人間に認めた自由な選択権の証です。ですから園に生えている木の中から自分の好きな木の実を選んで食べて良いのです。

「思いのまま」とは、「あなたの欲のままに」という意味です。「あれが食べたい。これが食べたい」という食の欲のままに、好きなものを、好きなだけ食べて良いと言って、アダムの自発的な自由意志を認め、アダムの自発的な自由意志による欲のままに好きな木から好きなだけ取って食べ良いのです。ただし、善悪の知識の木からは取って食べてはいけないと言われました。言い方を変えれば、神はアダムに「エデンの園に生えている善悪の知識の木以外のすべての木から思いのままに好きなだけ取って食べていいですよ。」と言われたのです。これは先ほどの太郎君一家のお話しと全く同じ構図です。

太郎君のお父さんは三人の子どもたちの自発的な自由意志を尊重して、三人の子どもたちに大きくなったら自分になりたい職業に就くことを喜びとしました。お父さんからすれば、人に迷惑を掛けるような職業以外ならどんな職業でも子どもたちのために応援しようと考えていました。これは、神がエデンの園にその土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせて「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。」と言ったとことと同じです。そして、アダムが生きものの名を付けるのに困っていた時、神は見かねてエバという助け手をアダムに与えました。お父さんが子どもたちを応援しようと考えていたように、神もアダムを応援していました。

ところが二郎君だけがお父さんの価値観と合わない、お父さんが喜ぶことが出来ないヤクザという職業？を選択したので、お父さんは二郎君に対して怒りました。二郎君がヤクザになることは、アダムとエバが神が禁じた善悪の知識の木の実を食べることと同じです。お父さんは怒りに任せて親子の縁を切るぞ！とまで言いました。アダムとエバも神が禁じたことを行っただけでエデンの園から追放されました。

お父さんは子どもたちの職業選択の自由を認め、子どもたちの自発的な自由意志を尊重しました。しかし人に迷惑を掛けるようなお父さんの価値観と異なる職業に対しては「親子の縁を切るぞ！」とまで言って怒りました。親子の縁を切ることは親子の勘当です。二郎

君はお父さんの子どもとして認めてもらえません。同じように神様もエデンの園に「見るからに好ましくて食べるのに良いすべての木」を生えさせて「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」と言ってアダムの選択の自由を認め、アダムの自発的な自由意志を尊重しました。しかし神が禁じた善悪の知識の木から取って食べたので、神はアダムとエバをエデンの園から追い出しました。アダムとエバがエデンの園から追い出されたということは、神と人間の親子の関係が絶たれたということです。この時点で人間は神の家族でなくなりました。神と人間の絶縁です。ですから、神が禁じた善悪の知識の木は、神が忌み嫌う、神の価値観と対極にある木ということになります。そして繰り返しになりますが、お父さんの言う「自由意志」とは「お父さんの価値観と共有出来る領域の中でなされた自らの意志決定」が、お父さんが子どもに認めた自由意志です。二郎君のようにお父さんの価値観と共有出来ない二郎君の自らの意志決定は、お父さんの立場からすればそれは「自由意志」と言わないのです。お父さんの価値観と共有出来ない子どもたちの自らの意志決定は、お父さんからすればそれはもはや自由意志の範疇ではありません。これはエデンの園でも全く同じです。

神が人間に認めた「自由意志」とは、「神の価値観と共有出来る領域の中でなされた自らの意志決定」が、神が人間に認めた自由意志です。神の価値観と共有出来ない人間の自らの意志決定は、神の立場からすればそれは「自由意志」と言わないのです。神の価値観と共有出来ない人間の自らの意志決定は、神からすればそれはもはや自

由意志の範疇ではありません。

私たち人間は、悪い事を選択することも、神が認めた人間の自由意志の中に有るかのごとく思っていますが、それは完全な誤りです。

悪の選択は神が人間に認めた自由意志の範疇にはありません。

冒頭で申し上げたように、罪の世界に在って現代に生きる私たちが謳歌している人間の自由意志は「お金」という土台の上に成り立っています。あなたが何を食べようがそれはあなたの自由です。あなたが何を着ようがそれもあなたの自由です。あなたがどんな家に住もうがあなたの自由です。しかし、すべてを自給自足出来るのなら別ですが、現実には、お金が無ければ好きなものも食べられません。好きな服も着ることが出来ません。大きなお家に住むことも出来ません。お腹が空いたからといってコンビニでお金を払わないで勝手におにぎりを持って来ることは出来ません。お金を払わないでお店からおにぎりを持ち出して店員に呼び止められたときに「俺は今おにぎりが食べたいんだよ！これは俺の自由意志なんだからお前には関係ないだろう！」なんて言い訳は通用しません。

罪の下に在る私たち人間の自由意志は「お金」に縛られる自由意志です。だから私たちはまず働いてお金を稼いで、そのお金によって自由な生活を楽しみます。

そのよう、エデンの園における人間の自由意志は神の言葉の土台の上で成り立っています。

次回に続く

本文の聖書のことばは「聖書・新改訳©1970, 1978, 2003 新日本聖書
刊行会」から引用しています。
